

令和4年度 小平市立小平第五小学校 学校評価報告書

学校教育目標 教育基本法の教育理念及び人権尊重の精神にのっとり、家庭や地域社会、児童の実態に即し、教育目標を「すすんで学び 元気で 思いやりのある子」と定め、その達成に向けて邁進する。

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 地域と連携し地域とともに歩む学校(家庭・地域と協力関係を築き、互いに貢献し合う関係を目指す)
- 【目指す児童・生徒像】 何事にも本気で取り組む 子ども (子ども自らが知識を身に付け、すすんで学習に取り組む)
- 【目指す教員像】 「教えるプロ」としての自信をもち、使命感をもって教育に取り組む教師 (分かる授業 考える授業 ともにつくる授業)

前年度までの学校経営上の成果と課題

成果:校内研究を通して、ICTの効果的な活用法や「教師と児童の対話的な学びの向上」が見られた。いじめに対する組織的対応を進められた。行事や会議の精選を進めることができた。
課題:必達目標を明確にし、基礎・基本の定着を確実に進める。時間内の学年会などを有効に機能させるなどさらに働き方改革を進める。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職による授業観察日等を活用して教員同士が授業を見合う機会をもち、授業力向上を目指す。 ・1時間の授業に対し、授業チェックシートを基に振り返る。 ・授業や日常の学習を通して、児童に伝え合う力を身に付けさせる。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職による授業観察時を活用して他教員の授業を見たり、教科主任が率先して授業公開を定期的に行ったりしている。 ・校長提案の授業チェックシートを各教員が活用することはなかなか難しい。 ・自分の意見を表現できない児童も学習者用端末を利用することで話し合い活動に参加している。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は分かりやすい授業に努めているか」の設問に対し、9割を超える保護者が肯定的に回答しているのはよかった。 ・「読書に親しんでいるか」の設問には、6割強の保護者が肯定的に回答しているが、さらに読書に親しめるように学校と家庭の両面が工夫する余地はある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳や体育の教科主任が自主的に授業公開を行い、より良い授業を追求しようという機運は高まった。 ・主任教諭以上が個々の専門的な授業テクニックを伝える「学び喫茶」を実施し、若手教員を中心に授業力向上につながる良い機会となった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年毎に学びの「必達目標」を設定する。 ・復習プリント等を授業や補習で継続的に取り組む。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の必達目標を意識して日々授業をしている。 ・個別の基礎的・基本的な学力を定着を図るためには、休み時間や放課後を活用している。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が必達目標を意識して取り組んだことで、特に漢字テストでは飛躍的に個々の児童の点数が伸びた学級が増えた。 ・学習支援を個別に必要とする児童に対し、8割の教員が放課後等の時間を活用して指導を行った。学校だけでは難しい面があり、保護者との連携が欠かせない。 	
いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回のあいさつ運動を実施し、ふれあいを深められるようにする。 ・毎朝、教室や昇降口で児童を迎え、教職員から笑顔であいさつをする。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも自ら挨拶をする児童が増えてきた。あいさつ運動の振り返りを行うことで、日常化していきたい。 ・昇降口では専科教員が必ず立って児童を迎えている。学級担任が8時10分に教室で児童を迎えることは十分でないため、引き続き教員の意識を高めていく。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校はいじめのない学校にするために適切に対応しているか」の設問に対して、9割の保護者が肯定的に回答していることは、それだけ学校を信頼しているということではないか。 ・五小の児童からすすんで挨拶を受けることが増えてきた。引き続き、指導してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体では、気持ちのよい挨拶をすすんでできる児童が多くなったと思われる。引き続き、児童主体・教員主体の両面からの取組を行っていく。 ・週4日以上、児童を教室で迎えている学級担任は6割程度にとどまっている。年度初めに意識向上を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止に向け、いじめ対策委員会を月1回設け、状況把握と組織的な対応を行う。 ・教職員一人一人がいじめを許さない態度で指導する。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校いじめ防止基本方針」について、4月の保護者会で保護者に周知した。児童のいじめにつながる行為に対して、学年・生活指導主任・管理職が連携しての組織的対応ができています。 ・いじめ防止の授業を道徳部と協力し合い、しっかり取り組むことができています。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策委員会を年3回のいじめ調査後と月1回実施した。各学年の状況を情報交換し合い、学校全体でいじめ防止への意識を高めることができた。 ・教員主体のいじめ防止研修は、引き続き確実に実施していく。 	
業務改善(働き方)	<ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システム等で、一人一人が出退勤について自己管理できるようにする。 ・週当たりの在校時間60時間を超えないようにする。 	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めは事務的作業が多いため、在校時間を超過する傾向にあった。 ・個人の仕事量により、遅くなる教員と定時に帰る職員との差がある。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の業務改善につながっているかはわからないが、地域防災・五小灯りまつり・生活科や総合的な学習の時間における学習支援などに関わることはできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期後半から職員室施錠を午後8時にした。また、学期末の授業時数削減を行うことで、できる限り残業時間が増えないようにしたい。